

江戸後期の儒学者・頼山陽は、儒学のみならず書や詩文にも長じ、今日で言えば政治・経済・文化に通じた批評家であった。安芸国〔広島〕出身で江戸に学び、ある頃より鴨川畔に住んだが、朝な夕な眺める美しい景観の京都を「山紫水明」の地と評した。爾来、京都を賞賛する代表的な形容詞として今に伝わる。彼の旧居もまた『山紫水明処』と名付けられ、旧姿をとどめている。

さて今を遡ること 1200 年前、平安京遷都がなされた時の選定理由は、美しい景観が尊ばれたわけではない。結論を言うと、時の桓武天皇は軍事上・防衛上の要件を重視したのであった。

延暦 13 年 (794) 11 月 8 日の遷都の詔では、「此国は山河襟帯にして、自然に城をなす。この形勝に因りて、新号を制すべし、宜しく山背国を改めて、山城国となすべし。又子来の民・謳歌の輩、異口同辞して平安京と日ふ」(『日本紀略』) と述べられている。

即ち、「この国は着物の襟のように山が高く囲み、帯のように河が取り囲んで自然の要害となり、城そのものである。この形状にちなみ新たに名称を定めるが、従来の山背国を改めて、山城国としよう。代々仕えてきた民や賛同してついできた者は、異口同音に平安京と呼んでいる。」とある。名称こそ安寧を願う平安京ではあったが、王城の地の始まりは敵からの攻撃に備えたものだった。

私はごく最近まで、太平洋戦争の際に京都は爆撃を受けなかったし、米軍も王城の地で重要な建物や文化財の多い京都を爆撃対象から外したとも聞いていた。また、その際に大活躍したのがラングドン・ウォーナー博士という方で、博士の作成した文化財リストと爆撃回避提言のおかげであると聞かされてきた。奈良も同様に救われており、博士は大恩人として顕彰碑が建てられた。

さて、以下の文章は米国に残る記録を丹念に追ったオーティス・ケリー氏が記したものである。ケリー氏は祖父同様に同志社大学で教鞭をとった方であり、終戦時は米軍の一情報仕官であった。

京都市内は実は 7 回空襲を受けた。3 回は迷子の B 2 9 が、残りの 4 回は艦載機からであった。御所に対しても攻撃がなされたのであって、地上掃射の流れ弾が御苑内の建物（紫宸殿の東側の久邇宮邸宅）の屋根瓦を破壊した記録が残っている。但し、当ニュースはごく最近まで注意深く抑えられていた。統計によれば、93 名の死者、177 名の負傷者、618 戸の損壊があったということで、これは確かに無視できない数である。しかし、この損壊にしても、編隊から離れて迷子になった B 2 9 がマリアナ群島の基地に帰る途中、雲の割れ目から何千メートルか下にふと見えた密集地帯とおぼしき場所に、残りの爆弾を落としたものと推測される。

#### 【ある電報】

「ワシントン、1945 年 7 月 21 日／最高軍機／緊急／陸軍省 35987／陸軍長官アテ極秘電報／コノ作戦ニ関ワル特別軍事専門家ハミナ圧倒的ニ貴下ノオ気ニイリノ町ヲ希望、ソノトキノ局地条件次第デ、四目標地チュウ、飛行士ガ最適トオモウ地点デ、ソレヲ使エルヨウ指令イタシタシ」

#### 【電報についての注釈】

電文発信者：ジョージ・A・ハリソン。

原子爆弾関係の暫定委員会の委員長代理。スティムソン長官の代理責任者。

電文宛先：ベルリン郊外、パーベルスバーグにおけるポツダム会談。

陸軍長官：ヘンリー・L・スティムソン (77 歳)。

軍事専門家：マンハッタン計画と陸軍航空部隊から選ばれた、大部分は文官である目標地選定委員会のメンバー。責任参謀はレズリー・R・グローヴズ少将。

飛行士：原爆の運搬機 B 2 9「エノーラ・ゲイ」号の搭乗員。

局地条件：視界の開けた気象条件が望ましい。

四目標地：京都、広島、小倉 (兵器庫)、新潟。

貴下のお気に入りの町：スティムソンのお気に入りの町=京都。

上記日付はまさしく終戦直前の日付であり、開発されたばかりの新型爆弾 (原子爆弾) を日本に投下するに關してのメンバー協議の結果と、どの都市をターゲットとするか、が打電してある。しかしながら後日、京都に原子爆弾は投下されず、広島と長崎が言葉に尽くせぬ被爆地となった。さらに、長崎は当電報の時点では対象とはなっていなかった。どこで歴史は変わったのか？

## 京都の文化財

京都市には**重要文化財が1,743点**（全国の約15%）、そのうち**国宝は207点**（同20%）と狭い地域に数多くあります。つまり高密度に存在するという訳です。こんな状況なので地震や火災は勿論、原子爆弾など投下されたらひとたまりもありません。京都は南を除く三方が山に囲まれており、原子爆弾の爆風の威力を試すにはまことに好都合な地形です。米軍が候補地に選んだ理由の一つは、この点にあります。山河襟帯、皮肉なものです。

## ウォーナー博士顕彰碑

奈良県法隆寺の西門を出て、塀伝いに右へ行きますと、ぽつんと碑が立てられています。古都を、文化財を戦火から救った恩人として戦後は日本人から神格化されたような方です。ボストンの名門出身で、ハーバード大学を卒業後、日本の美術批評家・岡倉天心の下で学んでいます。ルーズベルト大統領の従妹と結婚するなど、米政府要人の一人です。

ウォーナーが纏めた最重要文化財リストは後に**ロバーツ・コミッション報告書**という名で知られた文書に組み入れられます。当文書は、占領政策のバイブルともいべきもので、日本国内で占領統治に当たった米国人は、誰もがこれを参考にしたと言われております。

さてそのウォーナーですが、彼自身が『自分は文化財リストを作成したが、これをもって爆撃対象から外せなどと提言をしたことはない。』と述べております。

## スティムソン

クーリッジ大統領（在任1923～29）によりフィリピン総督として派遣され、フーバー大統領時代に國務長官に任命（1929）されています。その後も長く軍人畑を歩み、終戦当時は陸軍長官の要職にありました。東洋地域に派遣された若き日の折りに、神戸や京都を訪れた記録も残ります。京都の何かは彼に感銘を与え、老将に原爆投下除外の気持ちを抱かせたのでしょうか。

再び、ケリー氏が調査して記したものを下記に示します。前回より2日後の日付です。

**1945年7月23日** スティムソンからハリソン宛の機密の返電

「……ワレラ（トルーマン、チャーチル、ソノ他ノ最高首脳）患者（原爆トソノ推進）ノ経過順調ヲ喜ブ／……地名、マタ、補欠ノ地名ヲ知ラセ／カナラズ、余ノ決メタ特別ノ位置（キョウト）ヲハブクコト／余ノ決定ハ最高権威ノ承認ズミ」

京都はこの時点で難を逃れたと思われ、運命の電報です。実際、6月のポツダム会談前においては、原爆ではないにしろ下記の都市が爆撃対象となっておりました。主な軍事施設や軍事工場が存在したことが選ばれた理由です。終戦も近い頃には、軍事工場が被災を受けた各地から京都に集結を始めていました。（赤字の都市は7月21日付け電報の原爆投下候補地です。）

東京、横浜、川崎、**新潟**、名古屋、大阪、神戸、**京都**、**広島**、**小倉**（の兵器庫）、八幡、長崎。

長崎は確かに含まれていますね。外国人居留地としても、キリスト教ゆかりの地で信者も多い都市ですが、その点は顧みられなかったようですね。投下前、教会の鐘の音は響かなかったのでしょうか。それとも、爆撃のための合図だったとでもいうのでしょうか。

## 学士を授与された初の日本人・新島襄

**アーモスト大学**は1821年創立の米国屈指の私立名門大学であるが、新島襄も3年学び、「**理学士**」として卒業した。これは国内外を問わず、学士を授与された最初の日本人であろう。また、同大学は**演説法と体育**が必修であり、ために新島は正規の「**保健体育**」を受講した最初の日本人とも思われる。

尚、新島の名誉を傷つけるつもりはないが学位に関しては大学側の苦肉の策と思えるふしがある。新島は聖書の古典語であるギリシャ語とラテン語が不得手で、「文学士」授与は難しかったようだ。同大学にとって「理学士」授与は10年ぶりの出来事である。

これより前、新島が最初に入學した学校は**フィリップス・アカデミー**であるが、1778年創設の米国有数の名門校である。卒業生には**ブッシュ大統領親子**が名を連ね、父はハーバード大学へ、息子はエール大学へと進学している。まさにエリート大学進学のための登竜門と呼ばれる由縁である。

## ウォーナー伝説

ウォーナーは、日本のみならず中国、朝鮮、タイに関しても同種のリストを作成しています。それらのリストが作られた目的は、ロバーツ・コミッションの任務に沿って、略奪された文化財をどこに返還すべきかを識別し、もしそれが紛失または破損した場合、それに匹敵する等価値の文化財を弁償用として選び出す基準とすることでした。即ち、日本がアジア諸国の文化財を略奪あるいは破損した場合、日本の文化財から等価値のものを**選び弁償させる**、そのために作成されたのが、いわゆるウォーナー・リストであったというのが定説になっております。

ウォーナー博士が恩人であるという風聞は、おそらく占領統治を進める米軍側から創作されたものと思われます。巷間伝えられる説では、GHQの民間情報教育局のヘンダーソン中佐であるとか、後に駐日大使となったライシャワー氏によるものである、などなど。いずれにせよ日本人の反感を排除し、かつ同意を得て占領統治をする必要はあったと思います。

余談ですが、このライシャワー大使は日本の献血事業の始まりをもたらした方です。昭和39(1964)年3月、彼は暴漢に刺され輸血を受けましたが、当時の売血で採取された血液が原因で、C型肝炎に感染しました。日本政府は大慌てで売血から献血事業への取組みを開始したのです。

## スティムソンの真意

ケリー氏の説くスティムソン重要人物説も、そのまま鵜呑みにするわけにもいかないでしょう。何故なら、**彼は早い時期から原爆開発計画の熱心な支持者**であったからです。だとすれば、彼が京都を候補地から外すように主張したのは何故なのでしょう。

米軍関係者の回顧録では、彼が「京都は日本の古代の首都であり、歴史的な由緒のある都市であり、かつ日本人にとっては偉大な宗教的な重要性をもった心の故郷である。」と語ったとあります。

また彼の日記は、「**7月24日**、我々（スティムソンとトルーマン）はS I計画（原爆計画）について話をした。私は、提案された諸目標の一つ（**京都**）を除外する理由を彼（トルーマン）に再び説明した。この問題について彼は私の意見に同意する旨を繰り返し述べた。もし京都除外がなされなければ、そのような無謀行為によって生じるであろう深刻な事態のために、戦後長期にわたりその地域で**日本人を我々に和解させることが不可能**となり、**むしろロシア人に接近させることになる**だろう、という私の意見に彼は大いに賛成した。（後述略）」と記されています。

## 国破れて山河あり

8世紀、盛唐の詩人・杜甫は、節度使（軍閥）2名による内乱（安祿山の乱）で破壊され尽くした国土を、『**国破れて山河在り 城春にして草木深し**』（春望詩）と詠みました。戦乱のために国は滅びて、元の姿は無くなってしまったが、山や川だけは昔のままの姿を残している、という意味です。その詩は写実的で力強く、沈痛の趣があり、日本でも西行や芭蕉などが尊び愛唱しています。芭蕉は『奥の細道』平泉の条の冒頭で、「国破れて山河あり、城春にして草青みたり」と詠んでいます。山河というものは人工的な建造物とは異なり、やはり恒久的な存在のようですね。

## 山河襟帯

9世紀盛唐に活躍した超エリート官僚で詩人でもある白居易が、『**百居易（徐徳書情）**』で著した言葉です。白居易は、楊貴妃を亡くした玄宗皇帝の悲しみを歌った『長恨歌』でも有名ですね。白居易が活躍を始めた頃に平安京の遷都がなされて、早速その言葉を用いているわけで、当時の異国文化の吸収意欲とスピードはすごいと思います。

太平洋戦争においては、当然ながら多くの兵隊さんが故国を遠く離れた異国の地で果てました。調査によれば、敵の銃弾によるものよりは飢餓や栄養失調といった理由のほうが圧倒的なのです。

京都はその類まれな地形ゆえに原爆投下の標的となり、またその類まれな歴史と文化財ゆえに爆撃対象から除外されました。1200年前の詔において『**山河襟帯**』という言葉がよくも使われたものだと感じ入ります。